
NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2021.1

国立国会図書館
月報



本の森を歩く 江戸時代の料理本

類似検索で辿るまだ見ぬ資料の世界

717号 2021年1月



新年のごあいさつ

国立国会図書館長 吉永 元信

謹んで新春のお慶びを申し上げます。年頭にあたり、皆様のご支援、ご協力に心から感謝申し上げます。

昨年来、利用者の皆様には、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、ご不便をおかけして申し訳ありません。新型コロナウイルスの収束には時間がかかることが予想されますので、ウイルスと共存するようなサービスの形を引き続き模索してまいります。ご理解くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

館長に就任して9か月が経ちましたが、副館長として勤務していた約10年前に比べて、国立国会図書館が大きく進化していると感じます。収集すべき資料・情報の範囲が広がり、提供方法も変わりました。国会向けのサービスも、外部専門家の知見を積極的に活用するなどして能力を強化しています。

近年の情報通信技術の発展に伴って、私たちの社会活動やコミュニケーションの在

り方は変わってきました。図書館サービスに対するデジタル化、オンライン化のニーズも高まっていますので、国立国会図書館のデジタルシフトを推進し、知的活動を支えるデジタル情報基盤を拡充させなければならぬと考えています。その関連では、

当館の科学技術情報整備審議会で、有識者の方々から、デジタルデータをAI等の機械に読ませて活用する時代が訪れていることを踏まえて、情報基盤を整備していく必要があるとの意見をいただきました。また、納本制度審議会では、現在は収集できない有償の電子書籍・電子雑誌の収集の在り方について議論いただいているところです。なお、政府では、著作権法の図書館関係の規定についてデジタル化・ネットワーク化に対応するための見直しを検討されていますので、動向を注視しています。

MIA連携、現在はMALUI(1)とも言うそうですが、デジタルへの移行が進んだことで、利用者から見れば、資料を所蔵する各

機関の間の垣根が低くなったのではないでしょう。従来は別々の機関で調べなければならなかったことでも、オンライン上であれば、どの機関のデジタルデータにも同じようにアクセスすることが想定されるようになりました。情報基盤のレベルは、共通化やオンライン化が進んだことで格段に向上しています。一例を挙げれば、国立国会図書館がシステム構築・運用を担当している「ジャパンサーチ」²の正式版が昨年夏に公開されました。関係機関との連携を一層充実させ、ジャパンサーチを浸透させていきたいと考えています。

昨年は、ほかにも国立国会図書館にとって大きな出来事がありました。まず、関西館に新しい書庫棟が完成しました。これにより、関西館の書庫収蔵能力は、東京本館の書庫収蔵能力にほぼ匹敵する規模になりました。デジタル化が進んでも、収集資料を文化資産として保存する責務を引き続き果たすため、資料の東西の分散配置を計画

的に進めていきたいと思えます。また、国際子ども図書館が開館20周年を迎えました。開館時には我々には子どもへの直接サービスの経験がありませんでしたが、関係者の皆様のご指導のおかげで20年間歩んでくることができました。関西館、国際子ども図書館の発展にお力添えくださった皆様に、改めて感謝申し上げます。

ある脳科学者によると、紙の本を読む時と、デジタルデバイスで読む時とは脳の使い方が異なるそうです。グーテンベルクが活字を発明してから約500年続いていた紙の本の時代が、今終わりつつあるのでしようか。一方で、利用者の皆様が求めているのは「情報」だけではなく、本を手にとったり、図書館の中で知的な空間を楽しんだりということもあるのではないかとともに思います。デジタルネイティブと言われる、現在20代以下の方が、社会の中核を担うような時代はいつたいていどうなっているのか。今、私たちは大きな転換点に立っているの

かもしれません。

デジタルへの移行が進む中、デジタル情報基盤の構築に向けて核になるのは、やはり知識の大元である紙の資料を取り扱ってきた国立国会図書館ではないかと思えます。引き続き関係者の皆様との連携・協力を進めてまいり所存です。

本年も、皆様のご支援とご協力をたまわりますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

1 博物館 (Museum)、図書館 (Library)、文書館 (Archives) に大学 (University)、産業 (Industry) を加えたもの。

2 書籍、文化財、メディア芸術など、さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携して、我が国が保有する多様なコンテンツのメタデータをまとめて検索できる「分野横断型統合ポータル」。
<https://jpsrch.go.jp/>

3 メアリアン・ウルフ著 大田直子訳『デジタルで読む脳×紙の本で読む脳―深い読み』がで
きるバイリテラシー脳を育てる―』インターシフ
ト 2020.2

国立 国会 図書館 月報

NO. 717
JANUARY
2021
CONTENTS

新年のごあいさつ

3 『省亭花鳥画譜』

―激動の時代を駆け抜けた江戸の絵師
今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

8 本の森を歩く 第24回

江戸時代の料理本

―読んで楽しい、作って美味しい？ (前編)

16 類似検索で辿るまだ見ぬ資料の世界

―次世代デジタルライブラリーの画像検索を使って―

23 数字で見る国立国会図書館

21 館内スコープ

この文章、どこの言葉？

22 本屋にない本

『南の島の家づくり』

27 NDL Topics



表紙：
渡辺省亭 画『日本画譜 第2帙 四季の風景』
日本堂 明23 21×27cm (第1、4帙と合本)
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11457079/55>

『省亭花鳥画譜』

—激動の時代を駆け抜けた江戸の絵師

瀧澤 和子



一之巻より、満開をやや過ぎた桜花の枝にとまる鳥。省亭の十八番の構図で、類似の作品が複数制作された。省亭は、葉桜など散る直前の花の美しさを描きとめることを好んだ⁴。

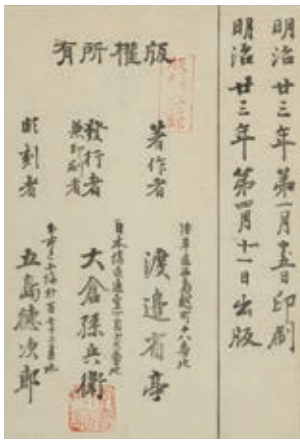
省亭花鳥画譜

渡辺省亭画 大倉孫兵衛 明23-24 3冊;25cm
<請求記号 3-146>

明治から大正時代にかけて活躍した花鳥画の名手、渡辺省亭⁽¹⁸⁵¹⁻¹⁹¹⁸⁾が、明治23(1890)年から24(1891)年にかけて発表した『省亭花鳥画譜』3冊は、瑞々しい花と愛らしくもリアルな鳥たちの魅力を堪能できる多色刷の木版花鳥画集である。

幕末の江戸に生まれ、16歳で歴史人物画の大家である菊池容齋⁽¹⁾に入門。輸出用工芸品(陶器、七宝など)の下絵や図案担当絵師として、工芸品輸出のために国策で設立された貿易会社である起立工商会社に25歳で就職した。欧米列強に追いつき不平等条約を改正することを目指し、輸出主導の産業振興に邁進していた当時の日本にとって、工芸品は最有望の輸出品の一つだった⁽²⁾。日本の花や鳥など、日本的なモチーフのニーズが高く、省亭は主に花鳥画家として生きた。明治維新で大名や公家などのパトロンを失った多くの名高い絵師達は、工芸品の下絵を描く仕事でなんとか生計を立てていたのである。

同社から、後に美術商として名をはせる通弁^(通訳)の林忠正⁽³⁾とともに明治11(1878)年のパリ万国博覧会(万博)へ職人として派遣され、2年あまりパリに滞在した。日本画の画家としては初の渡欧だった。林に伴われた文化人のサロンで即興画や掛け物(掛け軸)の制作実演を披露し、魔法のように素早い筆



(右) 渡辺省亭肖像。『曲水』17巻5号(182号)
曲水社 1932.5<請求記号 Z13-391>

(左) 彫師は五島徳次郎、梅澤己之吉。出版元である大倉書店の図書目録には「時絵、陶器、七宝物、縫取等の美術の工師に最も要用なる宝典なり、縦八寸五分横五寸五分」と紹介されている⁵⁾。

(下) 三之巻より。省亭は、鳩や雀などの日常的な鳥をよくモチーフに使った。



使いだと絶賛されたこと、印象派のエドガー・ドガに作品を贈呈したことなどを文豪・日本美術収集家であるエドモン・ド・ゴンクールら参加者が記録している。

時は19世紀末、西欧発の「博覧会の時代」。日本は、海外の需要と国内の供給を結びつけようと、国家事業として万博に参加して日本の工芸品をPRし、国内でも盛んに内国勸業博覧会を催すようになっていた。省亭は時代の波をうまくとらえた。明治10(1877)年の第一回内国勸業博覧会に出品した『群鳩浴水盤ノ図』はパリ万博にも出品されて前述の渡辺のきっかけになり、かつ、サロンでの制作実演を見て作品を模写したいと考えたイタリア人画家ジュゼッペ・ニッティスに買い上げられた。帰国後も博覧会に出品を重ねた。

こうした国内外での活躍が評価され、大倉孫兵衛⁶⁾(1843・1921)が経営する大倉書店(明治8(1875)年創業)から本画譜が出版されたのだった。夏目漱石の『吾輩は猫である』の装丁本を出版(明治38(1905)年)したことで有名な同書店では、ジャポニスムに沸く欧州への輸出と国内への工芸図案の提供を意識して、明治10年代から20年代にかけて、美術書(画譜)の出版がおおいに増えた。省亭は、のちに大倉書店から『花鳥画譜』⁷⁾(明治36(1903)年)、『省亭花鳥』⁸⁾(大正5(1916)



二之巻より「紫陽花に蝶」。省亭は晩年、自分の画風は欧州での生活に影響を受けたものだと言っている⁹。

この仕事⁸はすべて、例の魔法のコップをいくつかのせた小テーブルの前にたった手品師の機敏な動作を思わせた。
「ゴンクールの日記」



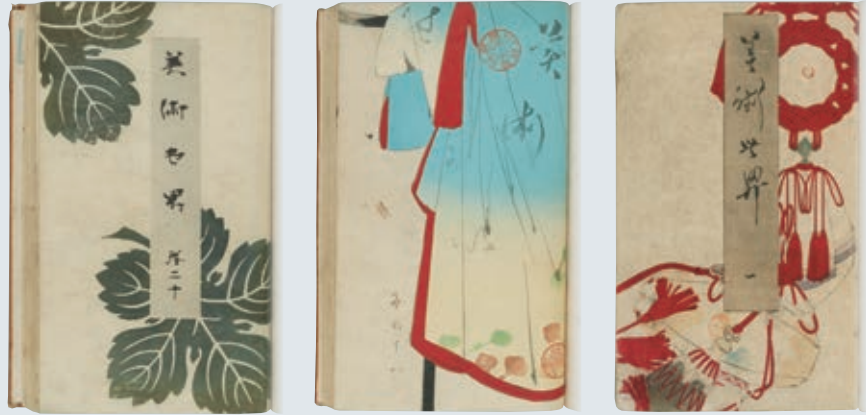
葛飾北斎画『北斎花鳥画伝』大倉孫兵衛 明24 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/851635/19> (モノクロ画像)
『省亭花鳥画譜』と同時期に大倉書店から出版された葛飾北斎の画譜。

年)も出版した。本画譜と同年に浮世絵の巨匠・葛飾北斎の画譜も出版されている(上画像)。

省亭作品の特徴は、写生を徹底して重視し、古典から学んだものと眼の前にある情景を写し取るデッサン力とを融合させたことで、省略的な画面構成でありながら、写実的な鳥を多く描いた。また、江戸の「粹」な美意識に西洋の感覚を取り入れて、独特の軽妙洒脱な作風を創り上げ、国内外で評判を得た。わずかな色数で仕上げるのも特徴だ。大胆なトリミングでモチーフに迫り、余分な背景、装飾は排している。年とともに画面の華やかさは増すが、画面構成はむしろシンプルになっていった。

本画譜には、省亭の魅力が手軽に味わえる数多くの花鳥画が収録されている。ちなみに、省亭は、本画譜と同時期に、自ら編集を手がけた木版画雑誌『美術世界』(次ページ)を創刊している。明治になって細密な銅版画や石版画も普及していたが、際立った発色の良さから、木版画多色刷技術は画集や図案帳にはまだ使われていた。

明治30年代には、七宝工芸家の壽川惣助⁽¹⁰⁾の七宝額《七宝花鳥図三十額》の下絵を制作した。当館が閲覧を行っていた⁽¹¹⁾ことでも知られる赤坂離宮(現迎賓館)のメインダイニン



渡辺省亭編『美術世界』第1-25巻 春陽堂 明23-27<請求記号7-17>
凝った装丁が目を引く和綴り雑誌。表紙は二巻ごとに異なったデザインで
右から巻1、巻18、巻20。帝国ホテルから毎号注文が入るなど、来日欧米
人に愛好された¹³。

まずはじめにいつもの通り、画布のまん中に
鳥のくちばしを描くとそれが二羽の鳥になる。

「ゴンクール日記」

グ「花鳥の間」⁽¹⁵⁾を、今も飾っている。下絵「花鳥図画帖」は東京国立博物館に所蔵されていて、不定期に公開される。

ここまでお読みいただいた皆さんには疑問がわくことと思う。こんな華々しい業績にもかかわらず、現代の日本で省亭の名がほとんど知られていないのはなぜなのか、と。

生前から現在まで欧米に愛好家が多く海外に作品が流出したこと⁽¹⁴⁾、ほとんど弟子を取らず業績を伝える人が少なかったこと、関東大震災で多くの作品が焼失したこと、などが重なった結果だ。審査への不満から博覧会など公の場には出品しなくなり、当時設立された官の美術団体などには参加せず画壇から距離を置くようになっていった。前述の赤坂離宮

二之巻より「百鶴」。省亭がくちばしを重視していたことがわかる。



の下絵を除き、後半生は、国内外の顧客からの注文にこたえて作品を制作する町絵師となった。当時、官展に出品しない画家は格が低いとみなされていたが、省亭は在野の画家であることに誇りを持って、68歳で没するまで淡々と制作を続けた。そのため、現存する多くの作品は個人が所蔵しているとされる。

平成29(2017)年に都内の日本画廊・加島美術で回顧展⁽¹⁵⁾が開催されたのをきっかけに、齋田記念館での渡辺省亭・水巴親子展⁽¹⁶⁾、評伝⁽¹⁷⁾の出版などが続き、本年3月末からは東京藝術大学大学美術館で展覧会も開催される⁽¹⁸⁾。花鳥画愛好家のあいだでは近年ひそかな省亭ブームが起きているので、注目だ。本の形で残された省亭の作品も是非知っていただきたい。



二之巻より「鶯鳥」。画面には空間をあえて多く残す。思い切ったシンプルなイラスト風の作品だ。

省亭先生は現今の画壇に於て全く特殊な地位を占めて来た幸福な方で、(中略)趣味生活を其のまゝの芸術を楽しんで終つた先生の一生は、現代ばなれのした名人らしい生涯であった。

「渡辺省亭先生の画」

1 菊池容齋は狩野派、円山四条派、浮世絵など多様な背景を持つ歴史人物画の大家。省亭入門後、最初の三年間は一切絵を描かせず、巧みな手業を身につけるよう、ひたすら書の修練を命じた。観察力を養うため、省亭はすれ違った通行人の着物の柄までを記憶するよう求められたという。弟子たちに、師である自分の画風や粉本(絵手本)に拠らない独創的な作画を奨励した。

古田あき子 著『評伝渡辺省亭 晴柳の影に』ブリュッケ、星雲社(発売) 2018 pp.51-55<請求記号 KC229-L229>

2 明治10年から20年代に美術工芸品が輸出に占める割合は、輸出総額の約1割に達したという。

佐藤道信 著『明治国家と近代美術 美の政治学』吉川弘文館 1999 pp.99-101<請求記号 K111-G39>

3 林忠正は1878年パリ万博に際して起立工商会社社員として渡欧し、1884年にパリに古美術店を開店。巧みな語学力や美術品の目利きで、フランスだけでなく西欧に名をとどろかす画商となった。1890年から1901年にかけて、浮世絵156,487点、絵本類9,708冊、肉筆・屏風・掛物等846点を売却した。林忠正シンポジウム実行委員会 編『林忠正 ジャポニズムと文化交流』ブリュッケ、星雲社(発売) 2007 pp.401-402<請求記号 GK49-H69>、前掲『評伝渡辺省亭 晴柳の影に』p.108、前掲『明治国会と近代美術』p.81

4 渡辺省亭・水巴[作]、齋田茶文化振興財団齋田記念館 編『花鳥礼讃 In praise of birds & flowers 渡辺省亭・水巴父と子、絵画と俳句の共演 齋田記念館開館20周年記念特別展渡辺省亭没後100年』齋田茶文化振興財団齋田記念館 2018 p.12<請求記号 KC16-L2936>、渡辺省亭[画]、岡部昌幸 監修、植田彩芳子 ほか 執筆『渡辺省亭 花鳥画の孤高なる輝き』東京美術 2017 p.213<請求記号 KC16-L2296>

5 岩切信一郎「大倉書店の形成 大倉孫兵衛の明治期出版動向(特集 大倉孫兵衛の事跡と思想の研究)」『大倉山論集』(54) 2008.3 p.31<請求記号 Z8-579>

6 大倉孫兵衛は幕末明治から大正にかけての実業家。家業の絵草紙屋から独立して大倉書店を経営する。大倉孫兵衛洋紙店(現・新生紙パルプ商事)、日本陶器合名会社(現(株)ノリタケカンパニーリミテド)の創業者でもある。井谷善恵「大倉孫兵衛の軌跡 錦絵出版元ならびに輸出陶磁器メーカーの経営者として(特集 大倉孫兵衛の事跡と思想の研究)」『大倉山論集』(54) 2008.3 pp.51-118<請求記号 Z8-579>

7 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/850241> (モノクロ画像)

8 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/966613> (モノクロ画像)

9 植田彩芳子「研究発表(要約) Resumes 近代花鳥画史における渡辺省亭の位置 絵画表現を中心に」『近代画説 明治美術学会誌』(27) 2018 p.141<請求記号 Z11-B184>

10 瀧川惣助は輪郭線のない無線七宝技術を駆使した日本画的な七宝焼きを制作した。のちに帝室技芸員。

11 国立国会図書館は昭和23(1948)年6月、赤坂離宮(現迎賓館)を仮庁舎に開館し、昭和36(1961)年まで閲覧を行っていた。

12 本館にあり、公式晩餐会や記者会見に使用される。木曾産のシオジ材の板壁に飾られた七宝焼額のほか、天井画、1,000kg以上あるシャンデリア、菊の御紋入りの輸入大食器棚、ゴブラン織風綴錦織など、贅沢な内装が見どころ。一般にも公開されている。詳細は迎賓館赤坂離宮ウェブサイト<https://www.geihinkan.go.jp/akasaka/visit/visit_area1/>を参照。

13 前掲『渡辺省亭 花鳥画の孤高なる輝き』p.90

14 アメリカのフリーア美術館、メトロポリタン美術館、ボストン美術館、ポーランドのクラフ美術館などが作品を所蔵。本画譜も欧米の古書店でも流通しており、大英図書館にも所蔵されている。大英図書館ウェブサイト<https://research.britishmuseum.org/research/collection_online/collection_object_details.aspx?assetId=243028001&objectId=779057&p.artId=1>を参照。

15 記念出版 前掲『渡辺省亭 花鳥画の孤高なる輝き』

16 図録 前掲『花鳥礼讃 In praise of birds & flowers 渡辺省亭・水巴父と子、絵画と俳句の共演 齋田記念館開館20周年記念特別展渡辺省亭没後100年』

17 前掲『評伝渡辺省亭 晴柳の影に』

18 「展覧会・催し物」東京藝術大学大学美術館ウェブサイト<https://www.geidai.ac.jp/museum/exhibit/current_exhibitions_ja.htm>

■引用の出典

ゴンクール[兄弟] 著、山田壽・斎藤一郎 訳『ゴンクールの日記 文学生活の手記 第6(1878-1884)』角川書店 1966 pp.40-42<請求記号 955-cG63g-O>

鎌木清方「渡辺省亭先生の画」『中央美術』4(5) 1918.5 p.98<請求記号 YA-105>

江戸時代の料理本

—読んで楽しい、作って美味しい? (前編)

伊藤 りさ



はじめに

突然ですが、皆さんは料理をしますか? 料理をしようという時に頼りになるのがレシピ集。現在、書店に行けばビギナーからプロ向けまで、ありとあらゆるジャンルの書籍や雑誌が並び、インターネットでも数えきれないほどのレシピが発信されています。

これらのレシピは当然作られることを前提として書かれているものですが、「料理のカタログ」という観点から料理本を眺めてみるのも、レシピの楽しみ方の一つではないでしょうか。たとえば、海外の不思議な調味料や謎の食材、特殊な調理器具などに新鮮な驚きを覚えつつ、料理の手順を追って、食べたことのない料理の味を想像するのはなかなか楽しそうだと思いませんか?

レシピ集を「読む」のであれば、

想像力を刺激される要素の多い方が楽しいもの。たとえば江戸時代に刊行された料理本はいかがでしょうか。江戸時代には、刊行年が概ねわかっているものだけで二百種近い料理本が刊行された¹⁾ことで、その内容も多岐にわたります。また、江戸時代の料理本はたまに挿絵がある程度で、料理のビジュアル面に関する情報が少ないので、味や調理技術などもさることながら、料理の見た目においても大いに想像力を働かせる余地があると言えましょう。

ところで、江戸時代、本稿で紹介するような「読んで楽しむ料理本」が多く刊行された背景としては、料理と出版の両方が庶民に身近になったことが挙げられるでしょう。食事や料理を楽しむむゆとりと、それらに

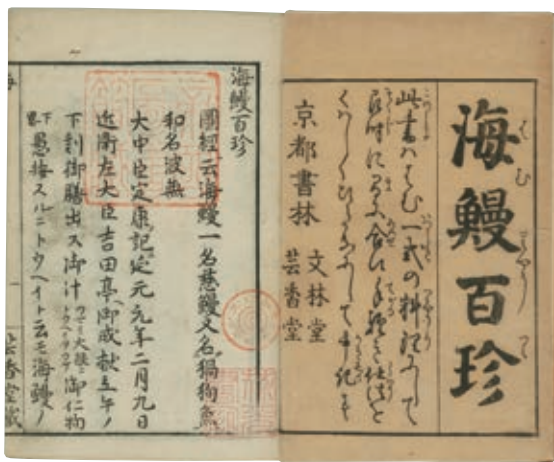
関する情報を商売として出版できる

環境が整ったことで、多くの料理本が刊行されるようになりました。江戸の料理文化の本格的開花は宝暦から天明期に始まり、化政期がピークと言われています²⁾が、料理本の出版点数も概ね同じような傾向を持つようです。

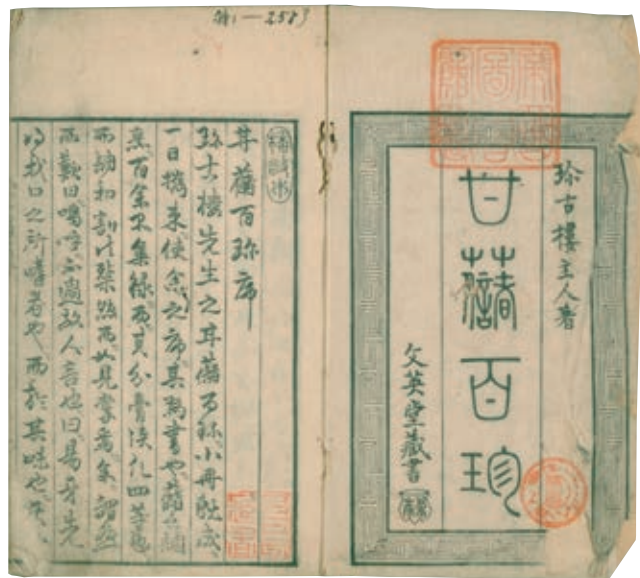
プロの料理人ではない庶民は、必ずしも「格式のある料理、おいしい料理、美しい料理をいかに作るか」ということばかりに関心があったわけではありません。一体どんなことが彼らの興味の対象になったのか、そんなことを江戸時代の料理本に探ってみるのも面白そうです。

では、当館で所蔵するものを中心に、江戸時代の料理本をいくつかの切り口で紹介してみましよう。

※資料の書誌事項は著者・編者等と出版年または書写年のみを記し、原則として『料理文献解題』に拠った。当館所蔵資料の書誌事項については、国立国会図書館オンラインで確認できる。



2 海鰻百珍



1 甘藷百珍



江戸時代の料理本を読む時の注意点

江戸時代の料理本を読むにあたって少し気をつけたいことがあります。それは、「料理本に出ている料理が本当に（その本が刊行された当時）作られていたとは限らない」ということです。江戸時代の料理本にしばしば見られることですが、既に刊行されている本の内容を、そっくりそのまま使い回しているケースが少なからずあるのです。そのため、長年にわたり多くの料理本に掲載されている料理だから広く普及していた、長いこと人気があった、とは必ずしも言えません。

また、いまでも同じでしょうが、誰でも知っているようなあまりに当たり前のことは料理本には書かれないものです。わざわざ料理本に載せるからには、当時としては珍しく新鮮に感じられる料理だった、ということも考えられ、もしかすると、それらの料理は料理本には載っているけれど、結局誰も作らないままだった可能性もあります。さらに突っ込んで言えば、完成写真などがなく、それが実際に作れるかどうか試した上で料理本に書かれているのかすら定かではなく、あるいは机上のレシピでしかない可能性もなくはないのです。

とは言い、読み物として料理本を楽しむのであれば、現実に作れるかどうかにはこだわらず、おいしそう、面白そうと思えればいいと割り切ってしまうのもありでしょう。

読み物としての料理本(其の二) 百珍物

江戸時代の料理本でもっとも有名なのは、おそらく『豆腐百珍』(醒狂道人何必醇著、天明二年〔一七八二〕ではないでしょうか。現代の料理人により百品すべてを再現した書籍もあり、江戸の昔も平成・令和の今も、豆腐好きの心を魅了してやまない一冊と言えましょう。

では、続編、余録まで刊行された『豆腐百珍』の人氣に便乗して、豆腐以外にも多くの百珍物が出版されていたことをご存知でしょうか？ 書名に「百珍」と付くものとして『甘藷百珍』(珍古楼主人編寛政元年〔一七八九〕(さつま芋)(画像1)、柳の下の泥鰌(画像2))、『海鰻百珍』(鱸介堂主人著寛政七年〔一七九五〕(はも)(画像3)、時代はだいぶ下りますが『蒟蒻百珍』(嗜蕪陳人著弘化三年〔一八四六〕(こんにゃく)が刊行されています。また、「百珍」と謳ってはいませんが、一つの食材にフォーカスした料理本に「料理秘密箱」シリーズがあります。『綱百珍料理秘密箱』(霽土堂主



作ってみた!

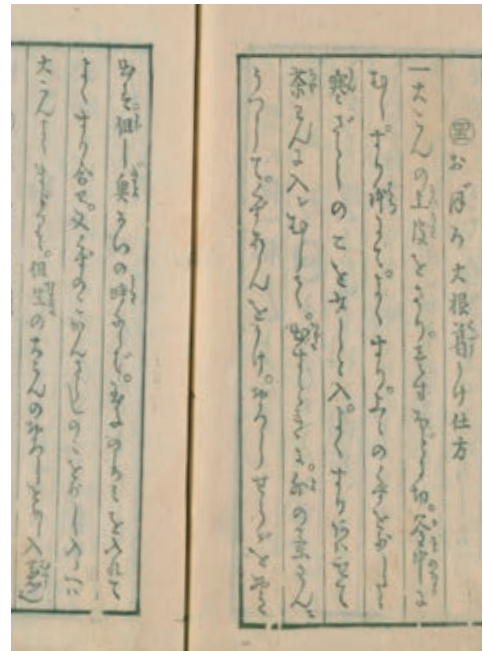
『大根一式料理秘密箱』の「おぼろ大根葛かけ」

大こんの上皮をさり、壱寸ほどに切、釜中にむし、すり鉢にて、よくすり、上々のくずを少しと寒ざらしのこ（※白玉粉）を少しと入、よくすりあわせて茶わんに入れむして、出すときに、外の茶わんニうつして、くずあんをかけ、おろしせうがをおき出す



皮をむいた厚切り大根を蒸して、潰して、葛（片栗粉で代用）と白玉粉を混ぜて、それをまた蒸すという手順なので、分かりやすく、作りやすいです。2回も蒸すので、手が込んでいたと思います。大根の甘味がよく出ていて、モチモチでつるんとした食感です。あんかけとよく合って、とても美味しかったです。また作りたいです。

※調理とそのコメントは総務課編集係とその応援団による（以下同）



3 大根一式料理秘密箱 おぼろ大根葛かけ仕方の部分

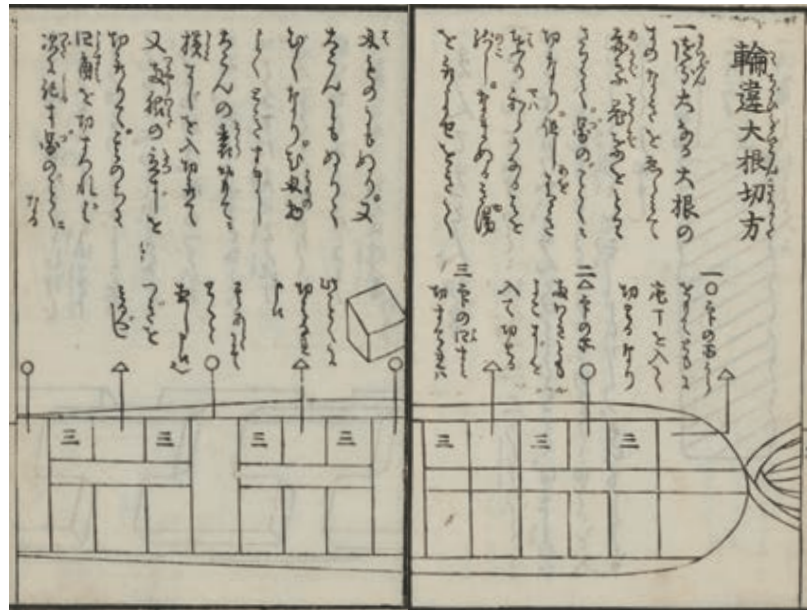
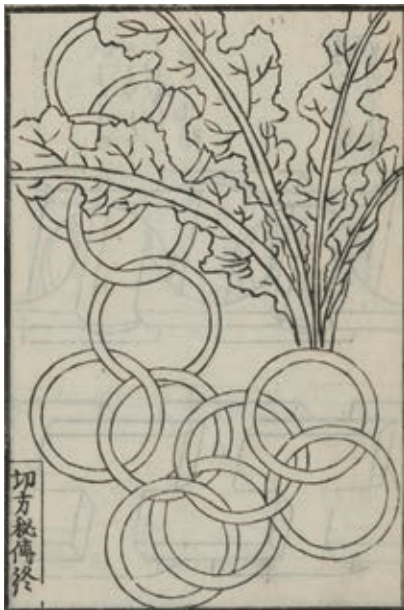
人著（鯛）『柚珍秘密箱』⁽⁹⁾（器土堂著）（柚子）『大根一式料理秘密箱』⁽¹⁰⁾（画像）
 3 『諸国名産大根料理秘伝抄』⁽¹¹⁾（器土堂著）（画像4）（以上、大根）
 『万宝料理献立集』⁽¹²⁾（器土堂著）『万宝料理秘密箱前篇』⁽¹³⁾（器土堂著）『万宝料理秘密箱二篇』⁽¹⁴⁾（以上、卵）が天明五年（一七八五）に一挙同時刊行されました（『万宝料理秘密箱二篇』のみ、寛政十二年（一八〇〇）か）。このほかにも、「飯百珍」ともいうべき『名飯部類』⁽¹⁵⁾（杉野権右衛門著、享和二年（一八〇二））や『鯨百珍』⁽¹⁶⁾のような『鯨肉調味方』⁽¹⁷⁾（天保二年（一八三二））などもあり、一つの素材でどれだけ料理のバリエーションを生み出せるかを楽しんでいくようです。

ところで、これらの料理本を手にした人たちは、レシピを見ながら実際に料理を作ってみたかと言えば、必ずしもそうではなく「へえ、こんな料理があるのか」「ほんとにこんなものが作れるのかなあ」といったように、読み物として楽しんで人も多かったように思います。たとえば、『諸国名産大根料理秘伝抄』⁽¹¹⁾に出てくる「輪違大根」⁽¹⁸⁾（左ページ画像参照）は、非常に高度なむきもの技術が要求される飾り切りです。これなどは、プロの料理人を対象としていない資料の性格上、料理本を書く方も読む方も、現実に作ることは想定していいのではないでしょう。

読み物としての料理本(其の二) 地方の名物

百珍物と同様に、読んで楽しむ要素が多いのは、地方の食材を扱った料理本ではないでしょうか。『料理山海郷』⁽¹⁹⁾（園趣堂主人筆、寛延二年（一七四九））（画像5）には、桑名時雨蛤、越後鮭塩引、伊勢赤味噌、

大根が鎖状に…!



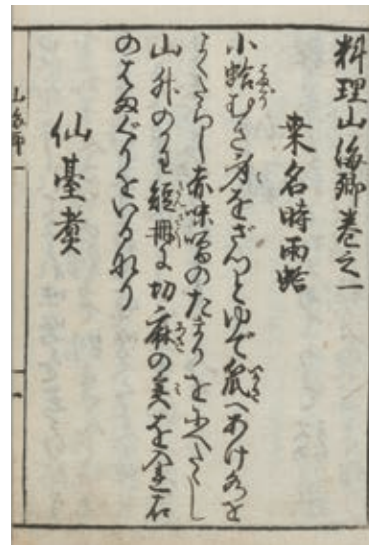
4 諸国名産大根料理秘伝抄 輪達大根切方の部分

🌸 作ってみた!

『料理山海郷』の「桑名時雨蛤」

小蛤むき身をざつとゆで箸へあけ、水をよくたらし(※切り)赤味噌のたまりをにへたし、山升のかわ短冊に切、麻の実を入れ右の蛤をいなるなり

材料が入手困難だったため、山椒の皮は山椒の粉で、赤味噌のたまりはたまり醤油で代用しました。麻の実も、今はヘンプシードとして大人気なようで手に入りませんでした。蛤は季節ではなかつたため冷凍を入手しました(ちゃんと三重県産!). 蛤そのものの味が美味しかったです。



5 料理山海郷 桑名時雨蛤の部分

南禅寺山椒、甲州打栗など、地名や寺社名を冠した料理名が散見されます。また、『諸国名産大根料理秘伝抄』や『鯛百珍料理秘密箱』にも、長崎雁もどき大根仕方、上州館林名物大根蕎麦仕方、下総名物香取煮大根、予州干焼鯛、対馬子蒸鯛、泉州堺の名物生干鯛の仕方、佐渡芋汁鯛の仕方など、素材は一つでも、地域によって様々な料理法や食べ方があることを想像させる、魅力的な料理名が並んでいます。「甲州打栗」にはわざわざ「堺に製する打ぐりとは別なり」と念が押され、下総名物香取煮大根も、香取郡の名物「小見川大根」を使うよう指定があります。対馬子蒸鯛の項では、「対馬は鯛が多く獲れるので塩鯛にして上方に回すが、当地では生のまま塩と醤油で煮て食べる」と紹介されており、これを讀んだ都会の住人は、対馬の鯛を塩鯛でしか賞味できないことを残念に感じたに違いありません。

現在のように好きなきときに旅行ができた、気軽に取寄せができる時代と違い、ある特定の地方の食材



6 清俗紀聞 蒸餃子も登場する

○餃子 麦粉を水みくつやく搗棒みくつろくの量三寸径はみ丸く一ぱく肉み猪肉を糸作りくして推茸葱を細く切すせ石のはみ包み蒸籠はく蒸用也



を駆使した料理を作ることは、遠方に住んでいる人には難しかったはず。この地方にはこんな食材や名物、料理法がある、これを使うとこんな料理が作れる……、地方の名物を紹介する料理本には、いまで言え「食」を中心にした観光案内にも通じるところがありそうです。

読み物としての料理本(其の三) 異国料理へのアプローチ

現在、外国料理の作り方を紹介したレシピ本は山のようにあり、世界をほぼ網羅しているのでは？ と思うほど。珍しい調味料や食材も、輸入食材店やインターネットで購入できるようになったこともあり、紹介される外国料理の幅はかつてないほど広がっているように感じます。特に中華料理は日本のごく普通の家庭でも日常的に食卓に上る大変身近な存在となつていますが、江戸時代はどうだったのでしょうか。

江戸時代の中国料理は、中国民間の在俗料理である「しっぽく料理」(しっぽく=テーブル)と、精進料理の「普茶料理」に大別されます。

江戸時代前期にまず長崎に入り、中期には上方・江戸にも伝えられて、これらの料理を出す料理屋もいくつかあったようです。こうした状況を反映してか、江戸時代後期にはしっぽく料理や普茶料理を取り上げた料理本も刊行されています。とは言え、江戸時代を通じて二百種近く刊行されたと言われる料理本のうち、

外国料理(しっぽく料理・普茶料理のほか、南蛮料理を含む)を扱っているのは十種程度に過ぎないとこのことで、やはり外国料理は江戸時代にはいささか縁遠いものだったようです。それでも、外国料理を紹介しようとするところに、外国に対する高い関心がかがわれます。

ところで、外国料理を扱った料理本は概ね二つに大別される、という興味深い指摘があります。一つは「民族誌的関心が優先し、決して料理書としての実用を企図しない(中略)すぐれて観照的であり、すぐれて観察者型」な内容のもの、もう一方は「外国料理を自己の食生活に積極的に吸収しようという実践的自己撮取型」とされています。現在のレ



7 料理通 第四編

左上：清人普茶式 左下：「卓子大菜春之部」（献立）。「生鴨ほねぬき」などの料理が見える。
下：長崎丸山において清客卓子（しっぽく）料理を催す図

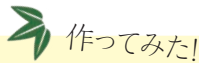


シビ本に例えてみれば、日本では手に入りにくい材料や調理器具でも、代用品は示さずそのままレシピを紹介するのが前者、日本で入手できる食材に置き換えるなどして実際に作りやすいレシピにアレンジするのが後者、ということになるでしょうか。どのような料理が紹介されているのか、料理本をのぞいてみましょう。

「観照的観察者型」の代表例と言えるのが、『八僊卓燕式記』（宝暦十一年〔一七六二〕序と『清俗紀聞（巻之四 飲食）』（中川忠英監修、寛政十一年〔一七九九〕（画像6））の二点です。この二つはいわゆる「レシピ集」ではありません。『八僊卓燕式記』は、清国人呉成充が、知合いの山西金石衛門という人物を自分の船に招いて饗応した際の記録、『清俗紀聞』は旗本中川忠英が長崎奉行として当地に滞在していた寛政七（一七九五）～八年の間に、唐人屋敷に通事・画工を派遣して、中国（福建・浙江・江蘇）の風俗慣行文物を聴取してまとめた調査記録で、これらが「観察者」的なのは蓋し当然と言えましょう。「鹿尾（鹿の尾の煮込み）」「羊

羔（羊の煮込み）」「火腿（干し豚肉）」など、中国人が作る中国料理をそのまま紹介しており、これをそのまま再現できたとしても日本人の口に合わなかったかもしれせん。実用というよりは、やはり「読む料理本」と見るべきものでしょう。

もう一方の「実践型」の方はどうでしょうか。当時、非常に人気があったと考えられる（15ページコラム参照）八百善の『料理通』は第四編まで刊行されましたが、そのうち第四編（八百屋善四郎著 天保六年〔一八三五〕（画像7））がしっぽく料理と普茶料理を取り上げています。ここに掲載された献立を見ると、「生鴨ほねぬき」「相鴨大切」など、中華風に見えるものもありますが、一方で「子持鮎よし野煮」「天王寺燕むし」のように、日本料理としか思われないうものも含まれています。実際、自序でも「清風とても。折々不得意なる組合せも少からず。彼をとり是をやつして。強て清風を好まず。只其式を用ひて。」と述べており、口に合わないものを無理に取り入れる必要はなく、中華風の様式（銘々膳ではなく、



『料理珍味集』の「長崎打鯛」

生鯛三枚におろし皮を去、薄身又赤き身を去、葛を打粉にして打延す、自由に（※思うように）平になるをうどんのごとく切て、薄のつべいよろし

平たく伸ばして細切りにした鯛に葛粉（片栗粉で代用）をまぶして、のっぺい汁風（野菜具沢山の醤油仕立て）にしました。出来上がりを食べた時は魚臭さを感じましたが、2日目は細切りの鯛の味が美味しかったです。さすが鯛です。

※この文献は本文では取り上げていません。また、国立国会図書館では原本を所蔵していません。吉井始子 編『江戸時代料理本集成 翻刻 第四巻』臨川書店 一九七九年（第三刷：二〇〇七年）を参考にしました。



7 料理通 第四編 普茶料理略式 台の大きさや高さが書かれている

大皿料理を皆で取り分ける、等）を取り入れればよいと考えているようです。そのことは、「会席普茶料理略式」の部分でも「白煮の猪の蹄丸煮の鶏 焼羊の属 日本にて調味しがたき物は、その時々魚鳥に更て庖丁す」とあって、かなり日本風にアレンジした形で献立を作ろうというスタンスであることがうかがえます。

や器物を含む中国風の形式を取り入れて、その趣向を楽しめばよい、という傾向があり、十九世紀初め頃にはそれを「略式」として、中国料理を取り入れる一つの形式となっていた、というのです。東四柳氏はそれを、「新しく導入された異国趣味を、「略式」という形式だけを用いる方法で、しつらいや器等は中国風、しかしその料理内容、卓袱台は日本風にして用いる（中略）折衷化された饗膳スタイル」と述べています。ただ、これを「中国料理」と言ってもいいのか、いささか首を傾げざるを得ませんが……。(後編に続く)

【参考文献】(注、本文に挙げたものを除く)
川上行蔵編『料理文献解題』柴田書店 一九七八年
『江戸時代料理本集成』臨川書店 一九七八—一九八一年
大久保洋子『江戸の食空間』(講談社学術文庫) 講談社 二〇一二年
練馬区立石神井公園ふるさと文化館編『江戸の食文化 特別展』練馬区立石神井公園ふるさと文化館 二〇一四年
原田信男編『江戸の食文化』小学館 二〇一四年
『江戸の美味しさ召し上がれ』西尾市立岩瀬文庫 二〇一五年
「和食；日本人の伝統的な食文化」に関する典拠一覧 国文学研究資料館ウェブサイト [<https://www.nijl.ac.jp/pages/images/washoku.pdf>]
博望子著、原田信男訳『料理山海郷 江戸時代の珍味佳肴を知る』(教育社新書 原本現代訳 134) 教育社 一九八八年



8 江戸高名会亭尽 山谷



9 八百善組立絵 (全部で7枚あります)

完成するとこんな様子です。



戸栗美術館作成、八百善ホームページより

八百善を巡る諸資料

八百善は浅草にあった料理茶屋で、当時の江戸で一二を争う、超がつくような有名店でした。『料理通』が発売された際の引き札(広告ちらし)は柳亭種彦が手掛けています。引き札は散逸しやすいものですが、当館所蔵の『柳糸屑』に文面が筆写されており、内容を知ることができます。

八百善の盛名は地方にも鳴り響いていたらしく、『料理通』はお土産としても珍重されました。文化から天保頃の吉原周辺の話題を伝える『閑談数刻』には、「遠国の人買ひてみやげとス。」と書かれています。ペーパークラフトの「八百善組立絵」(画像9)もお土産として配られたそうです。切り抜いてはたばたと組み立てると立体的な八百善店舗が出現するという仕組みで、当館で所蔵するのは組立前の一枚物の状態ですが、八百善ホームページでは完成写真が見られます(下画像参照)。

八百善は、その有名さゆえ錦絵の舞台にもなりました。「江戸高名会亭尽 山谷」(天保中期)(画像8)には座敷の様子が、「東都高名会席尽」(嘉永五年[一八五二])では八百善の二階から見た日本堤の風景が描かれています。こうしたお土産をもらった人は、『料理通』や組立絵、錦絵を見ながら、八百善での会食を想像して喉を鳴らしたのかもしれない。

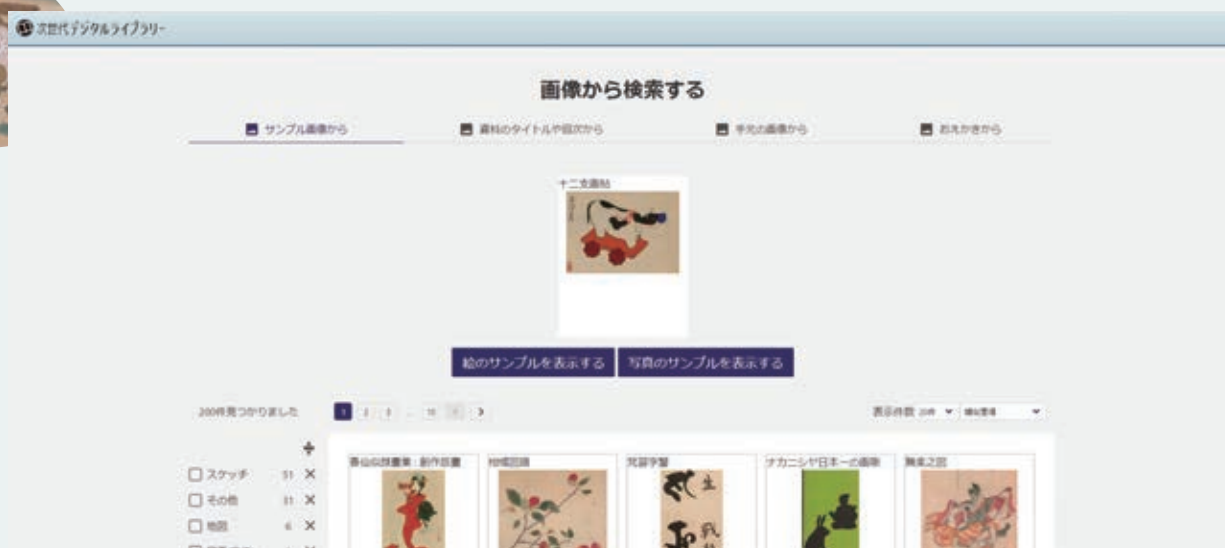
【注】

- 1 原田信男『江戸の料理史』(中央公論社、一九八九年)
- 2 注1に同じ。
- 3 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536494]
- 4 福田浩・杉本伸子・松藤庄平著『豆腐百珍(とんぼの本)』(新潮社、二〇〇八年)
- 5 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536724] 本誌2019年5月号でも紹介
- 6 当館請求記号: 182-149
- 7 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536696]
- 8 当館請求記号: 121-103
- 9 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536184]
- 10 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2536547]
- 11 当館請求記号: 191-306
- 12 当館では写本を所蔵。当館請求記号: 244-332
- 13 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2576168]
- 14 当館請求記号: 183-143
- 15 平田萬里遠「江戸時代における外国料理の書」『論集東アジアの食事文化』(平凡社、一九八五年)所収
- 16 注15に同じ。
- 17 当館請求記号: 211-255
- 18 当館請求記号: 138-46ほか
- 19 当館請求記号: 186-94ほか
- 20 東四柳祥子「江戸料理書に見る中国料理献立の受容」『風俗史学』三十(二〇〇五・三)
- 21 当館請求記号: 210-26
- 22 なお、引札の実物も現存しており、東洋文庫が所蔵する引札の写真が『江戸の料理と食生活 日本ビジュアル生活史』(原田信男編著 小学館、二〇〇四年)に掲載されています。
- 23 『隨筆百花苑 第十二巻』(中央公論社、一九八四年)所収
- 24 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1286945]
- 25 八百善ホームページ [http://www.yaozen.net/history/history_05.html]
- 26 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1308393]
- 27 国立国会図書館デジタルコレクション [https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1308508]

類似検索で辿るまだ見ぬ資料の世界

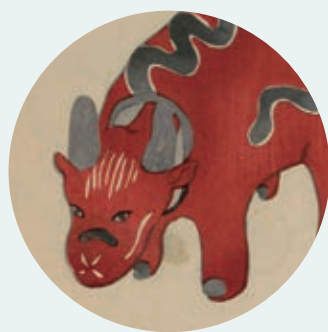
～次世代デジタルライブラリーの画像検索を使って～

川島 隆徳



<https://lab.ndl.go.jp/dl/>

※ Internet Explorer では動かないため、他のブラウザでご利用ください。



NDL ラボは、図書館の未来形サービスを考えるための実験場です。電子情報部電子情報企画課次世代システム開発研究室で行っている調査研究を形にして実験サービスとして提供しています。ここで紹介している「次世代デジタルライブラリー」のほか、任意の文字列から日本十進分類法（NDC9版）による分類を自動推定するアプリ「NDC Predictor」などがありますので、一度のぞいてみてください。

<https://lab.ndl.go.jp/index.html>

NDL ラボでは、デジタルライブラリーに関する調査研究の成果を試すことができる実験サービスとして、2019年3月から次世代デジタルライブラリー（以下、次世デジ・じせでじ）を公開しています。

このサービスは、メタデータや全文での検索に加えて、画像検索機能を備えていることが特徴です。機械学習を利用して資料の中から挿絵等の画像部分だけを自動的に抽出し、それぞれの画像の特徴を更に別の機械学習を利用して数値化しています。後者の機械学習によって得られた数値の近さを「似ている度合い（類似度）」とすることで、ある画像に似た別の画像を探すことが可能になっています。

2020年8月に、次世デジの画像検索機能は、国立国会図書館デジタルコレクションでパブリックドメインとしてウェブ公開されている全ての図書・古典籍を対象としました。33万5426点、3691万1006コマの中から抽出された画像を検索可能で、図書館の資料の画像検索は日本初です。

本稿では、画像検索の実例を示しながら、その楽しみ方を紹介します。



川瀬巴水 KAWASE Hasui, Autumn Rainbow, Hatta Kaga, woodcut on paper『加賀八田 (秋の虹)』(愛知県美術館所蔵)

「愛知県美術館コレクション」収録


(https://jpsearch.go.jp/item/apmoa_mapps-18637)

次世デジの画像検索のしくみ

画像が似ている・似ていないという判断は主観が入りますから、画像検索では「何をもって似ているというか」という点を定義する必要があります。次世デジでは、ImageNet という 1400 万枚を超える画像を犬や椅子など被写体の名称でカテゴリ分けしたデータセットを学習することで、世の中の様々な種類の物体を分類できるようになった分類器を使って画像の数値化を行っています。コンピュータが画像をうまく分類するためには、画像の特徴をうまく捉えて数値化できている必要があります。つまり、分類器は似たような画像同士は互いに近い数値と判断し、似ていない画像同士は互いに離れた数値と判断しているだろうという仮定を置いています。これが、次世デジの画像検索が依拠する「似ている」の定義となります。

ImageNet は、主にインターネット上のカラー写真を中心とした非常に汎用的なデータセットなので、次世デジが対象とする「本の中の絵」とは、データの傾向が異なります。そのため、例えるなら、百科事典の項目を使ってテレビゲームの特徴を数値化してしまうとも言えます。そういった食い違いが発生することもあります。さらには、検索エンジン等での画像検索とは異なって、探したい画像が資料中の図の中には無い、という場合もあります。そんなわけで、検索結果が直感と異なる場合がありますが、たまに違う画像が混ざってくるのもセレンディピティの源と思って、「検索」というよりも「探索」として使っていただくのが良いように思います。

画像検索には 4 つの機能があります。1 つめの機能は、抽出された画像 1 つを選んで、その

画像に似た画像を探す機能です。検索された画像の下に虫眼鏡マーク  の検索ボタンリンクがありますが、これをクリックしても検索ができます。

2 つめの機能は、お手持ちの画像を使って画像検索するものです。例えば、川瀬巴水の版画（加賀八田 秋の虹・愛知県美術館所蔵・これはジャパンサーチ*で調べました）で検索すると、当館所蔵の様々な版画資料が見つかりました（上図参照）。明治時代に活躍した小林清親の『清親畫帖』などもヒットします。また、画像の中の一部を切り出して検索することも可能です。

3 つめの機能は、おえかきから検索というもので、画面上に描いた絵で検索するものです。ところが、次世デジでは古い資料中にある毛筆的な部分などが画像として抽出されているため、検索結果はほとんどそれで埋め尽くされてしまいます。線画から線画が検索されるのはある意味正しいので、例えば輪郭に色や影を肉付けしてくれるような機械学習を利用しないと、直感のおえかき検索は実現しなさそうです。

4 つめの機能は、これは厳密には画像検索ではないのですが、タイトルや目次から画像を検索する機能です。これは、タイトルや目次から資料を検索して、その資料の中に含まれる画像を何枚か表示する機能ですが、具体的に探したい画像がある場合には、ここから入ってみるのもひとつの方法です。

※さまざまな分野のデジタルアーカイブと連携し、多様なコンテンツを検索・共有・活用できるデータベース。国の機関等と連携・協力し、国立国会図書館が運用。 <https://jpsearch.go.jp/>

『十二支画帖 亥・子・丑之巻』



1



『国牛十図』

2

試しに1つめの機能で、季節のキーワードとして「十二支」で検索してみましょう。……『十二支画帖 亥・子・丑之巻』(1)という資料が目を引き

ます。これはおもちゃ絵の版元である神田の伊勢辰商店(現いせ辰)が大正12年に出版した、干支のおもちゃ絵を集めた資料のようです。どれかの絵をクリックすると、国立国会図書館デジタルコレクション III FのImage APIを利用したビューアが開きます。ここで、左側のタブから「図表」を選ぶと、資料から抽出された画像の一覧を見ることが出来ます。どうやら、65枚の画像が抽出されたようです(絵の断片のようなものも混ざりますが、そこは機械学習ゆえのご愛敬)。

その中から、一番デフォルメされていない牛を選んで検索してみます。すると畜産系の教科書の写真に混じって、『国牛十図』(2)という資料の牛がヒットしました。これは、鎌倉末期の日本各地の牛の図説で、解説は10点ありますが、図は9点しか載っていません。どれも似たような牛の絵ですが、そのうち1点を選んで検索してみます。

同じような畜産系の資料が出てくるのかと思いきや、なぜか検索の上位は海豚や鯨の図像(3)でした。画像検索では、こういった海の生き物や植物の図譜に行き当たることがよくあります。

わくわく どうなるのかな?



3

『鯨及海豚各種之図』

そんな中、『奇獣写生図』(4)というタイトルに目が止まります。犬のような絵には、「狼の一種 山のイヌ」と書いてありますが、これのどこが奇獣なのでしょうか。他の図像を見ていくと、ハクビシンのような見た目の動物に、「千年モグラ」とタイトルが付いています。これは、落雷とともに天から落ちて来ると言われた雷獣の別名で、確かに奇獣と言えましょう。そして巻物の最後には、「水虎の図 乾品」という絵が。水虎というのは河童のことですから、これは河童のミイラを描いたものでしょう(苦手な方はご注意ください)。面白そうなのでこれで検索してみます。

……残念ながら他の河童絵が見つかったりはしませんでした。『玉石圖譜』(5)という資料を発見します。この資料も出版年不明の資料ですが、これまでの生物系とは違って変わって様々な謎の物体が描かれています。解説文がそれぞれの絵についており、「掘出せり」と書いてあることから、地中から掘り出した遺物を記録した図譜なのではないかと思われます……が、どう見ても埋まっていたとは思えないような絵もあり、準備範囲が不明です。

5



『玉石圖譜』

もはや動物ではない……

奇獣??

4

『奇獣写生図』



水虎の図 乾品



千年モグラ



狼の一種 山のイヌ

なぜか着物！！

どうして僕は、
こんなところに
来てしまったのだろう...



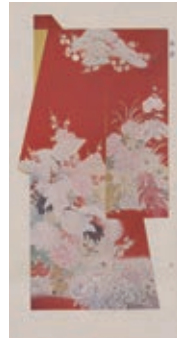
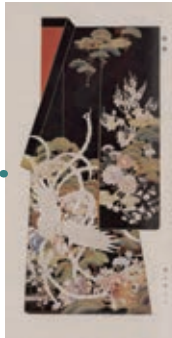
7

『図案百種』



6

『みひかり』



『玉 石圖譜』の中から、刃の断片と思しき画像で検索をかけると、なぜかほとんど真っ黒の画像が検索結果に混ざっています。タイトルは『みひかり』（6）。書誌を見てみると、これは昭和2年に呉服屋の市田商店（現ツカモト市田）が編集した着物の図案集のようです。巻頭にはカラー写真も収録されており、美しい着物の図案を見ることができます。

もう少しいろいろなバリエーションが無いものかといくつかの着物の柄から画像検索していると、同様の着物の図案集の他に、『図案百種』（7）という資料が見つかりました。タイトルの通り、様々な図案が載っている資料で、思ったよりも現代的な図案も含まれているため二次利用にも良さそうです（もちろんパブリックドメインの資料ですので、ご自由にお使いいただけます）。

……と、キリが無いのでこの辺でとめておきますが、かように画像の類似検索ではどンドンと資料を辿っていくことが可能です。キーワード検索ではないことがポイントで、探したいものがピンポイントでは見つからない代わりに、探し方が分からない資料や、もともとの目的からは外れた資料などが見つかるのが魅力と考えています。

今回は紹介できませんでしたが、刀剣の図録や、風景画の他、古い写真の検索などもお勧めです。お時間のあるときにぼちぼちと画像検索ボタンを押して、いろいろな資料に出会っていただければ幸いです。

■出典

- 1 『十二支画帖 亥・子・丑之巻』 巖谷小波 等編 伊勢辰商店 大正 12 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1183116>
- 2 『国牛十図』 河東直麿 記 [1---] [写] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543102>
- 3 『鯨及海豚各種之図』 [1---] [写] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2607310>
- 4 『奇獣写生図』 [1---] [写] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2543099>
- 5 『玉石圖譜』 [1---] [写] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2542398>
- 6 『みひかり』 市田商店意匠部 編 芸艸堂 昭和 2 <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1236324>
- 7 『図案百種』 [1---] [写] <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2609936>



この文章、 どこの言葉？

外国資料課整理係では、文字通り「外国資料の整理」を担当しています。「整理」って？ 本棚の整理整頓でしょうか？ いいえ、違います。国立国会図書館オンラインで検索できるように、データを作成するのが私たちの「整理」です。検索するみなさまが探している本を少しでも見つけやすいように、多岐に渡る項目を入力していきます。本のタイトルや著者、出版者、出版年などの基本的な情報に始まり、本の大きさ、挿図や付録の有無、造本の特徴（たとえば仕掛け本や和綴じ本）まで、挙げていけばきりがありません。

今回はその中から、外国資料ならではの「本文の言語」、すなわちその本が何語で書かれているのかを示す情報に注目してみましょう。データ一件ずつに、その本が書かれている言語を示すコードを選んで入力していくのですが、様々な言語に対応するために、なんと500以上のコードがあります。イヌイットの言語であるイヌクティトゥット語の本を整理する際にカナダ先住民文字の入力に苦労したという話を耳にして、対応するコードがあるのか調べた時も、ちゃんとありました（コードとしては「321」）。私たちの課ではアジアの言語は扱いませんが、いわゆる欧米言語以外にも、サハラ以南のアフリカ諸語や、コーカサス・南太平洋・

北極圏の諸言語も守備範囲のため、言語の判別に苦戦することが多々あります。が、様々な言語の文章を目にできるのは仕事上の楽しみです。

この「本文の言語」、実はみなさまが検索する際に役に立つこともある項目です。例えば、森鷗外や夏目漱石を著者名で検索し、「図書」で絞り込んだ後に、「本文の言語」をクリックすると、二人の文豪の作品がどんな言語に翻訳されているかが分かります。同じ日本文学の作家の作品だから同じ言語に翻訳されている、という訳でもありません。国立国会図書館で所蔵している鷗外と漱石の翻訳書を比較してみると、最も多いのはどちらも英語ですが、その先は様子が変わります。鷗外であればドイツ語、漱石であればフランス語を多く所蔵しているのです。

私自身は、以前所属していた国際子ども図書館で「私の子どもに私の母国の言葉で書かれた絵本を読ませたいのだけど、〇〇語の絵本はどんなものを持っていますか」というような質問に答えるために、「本文の言語」による検索を頻繁に行っていました。データを使う側から作る側になることで見えてくることもあり、図書館の仕事の奥深さを感じます。

（外国資料課 賀内玄敬）

本屋に

ない

本



南の島の家づくり
東南アジア島嶼部の建築と生活
竹中大工道具館 [2018] 53p 30cm
<請求記号 KA111-L6>

「伝統的な木造建築」と聞いて、私たち日本人は何を思い浮かべるだろうか。五重塔などで有名な法隆寺を思い浮かべる方もいれば、同じく世界遺産に登録されている白川郷・五箇山の合掌造り集落を思い浮かべる方もいるだろう。しかし、木造建築は日本だけの文化ではない。世界には、地域ごとに独自に発展した木造建築が存在する。

本書は、2018年に開催された展覧会「南の島の家づくり—東南アジア島嶼部の建築と生活—」の図録である。

まず目を引くのは、表紙の写真。屋根の中央部が高く突き出た家屋の写真である。この特徴的な屋根を持つ家屋は、インドネシアのスンバ島の家屋で、「マラプの家」と呼ばれている。尖っ

た屋根の屋根裏には、父系氏族の始祖や祖霊（マラプ）の宿る神器が保管され、人が屋根裏に上ることを許されるのは儀礼の際に限られる。「マラプの家」は、日常的な生活空間であるだけでなく、伝統宗教上とても神聖な空間であるようだ。このように、スマトラ島、ジャワ島、フィリピン諸島をはじめとする多数の島々からなる東南アジア島嶼部には、日本とは異なるユニークな木造建築が存在する。本書は、この地域の建築とそこで暮らす人々の生活を紹介している。

本書の前半では、東南アジア島嶼部の家屋の特徴とその様式に至るまでの変遷を、複数の島・民族の家屋を例に挙げて考察しており、各家屋の独特な

様式が面白い。特に、マラプの家の構造に焦点を当てた記述からは、スンバ島の人々に根付く世界観を知ることができる。後半では、ジャワの木造王宮とモスクを建築技法の側面から詳しく説明しており、段々状に組み上げられた軒桁（トンパン・サリ）などの特色ある構造が興味深い。そして、その伝統的な宮廷建築に必要な技能や世界観を会得した大工のエピソードからは、伝統を受け継ぐ人々の偉大さを感じる。最後に巻末のコーナーでは、自然材料や各地域の台所について紹介しており、伝統的な家屋での暮らしや時代に伴う変化を知ることができる。

本書は、展示のベースとなった研究や会場で紹介しきれなかった専門的な

内容を掲載しているため、図録としてはとても読み応えがある。また、建築方法を詳細に解説する一方で、家屋の特徴と生活・信仰の関係を、多くの写真や図を使い、視覚的に分かりやすく紹介している。建築に興味をお持ちの方も、建築に馴染みがない方も、楽しみながら読むことができる一冊となっている。

なお、展示会場となった竹中大工道具館とGallery A⁴が、展示物を撮影した動画をYouTubeで公開している。約4分の短い動画だが、会場に再現されたスンバ島家屋の内部などを見ることができると、この動画を見れば、本書をより一層楽しむことができるだろう。

(山崎優里亜)

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介いたします。

数字で見る 国立国会図書館

『国立国会図書館年報 令和元年度』から

『国立国会図書館年報 令和元年度』をもとに、
国立国会図書館の業務、サービス、組織に関する
おもな数字を抜粋しました。

※数字は令和2年3月31日現在（令和元年度の実績）

国会へのサービス
依頼調査回答

3万6402件

国会議員等からの依頼に基づき、国政
課題や内外の諸事情に関する調査、法
案の分析・評価などを行っている。

国政課題に関する
調査研究

319件

行政・司法支部図書館へのサービス
貸出5957点

支部図書館制度に基づき、各府省庁および最高裁判所に
支部図書館が設置されている。この図書館ネットワーク
をもとに、図書館サービス、資料の交換が行われている。

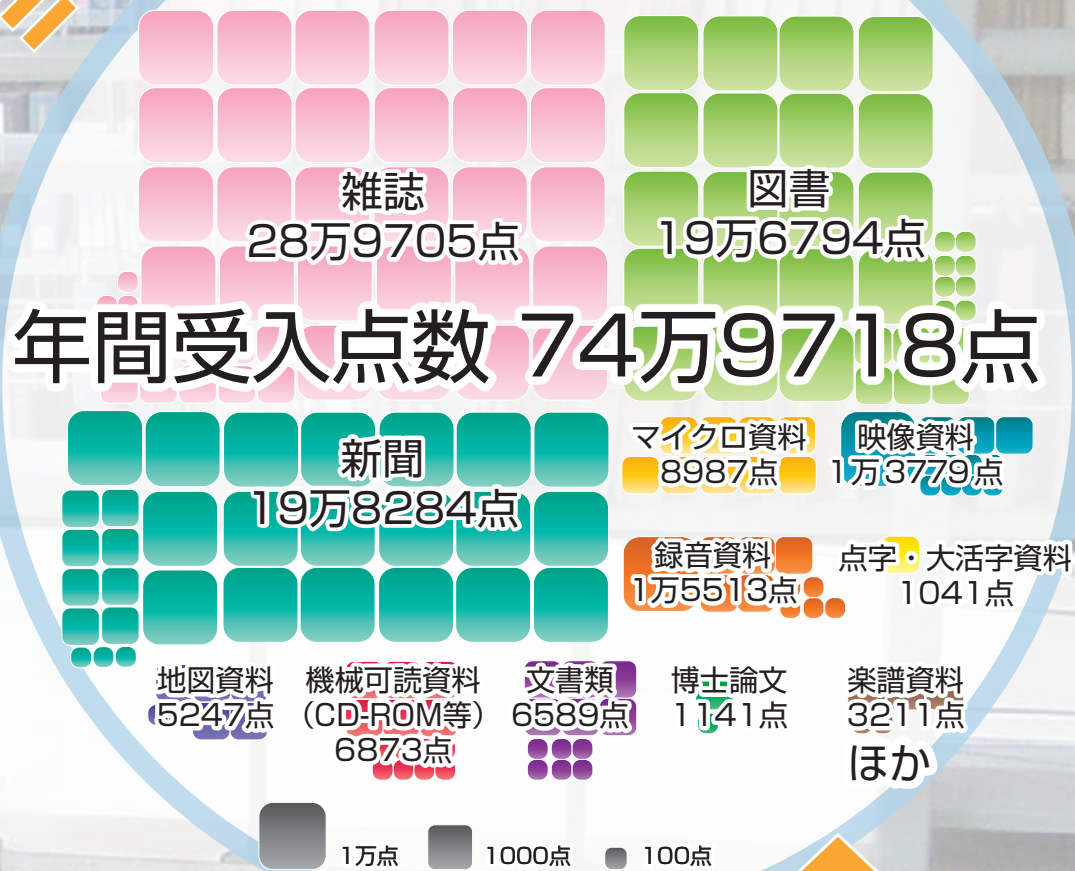
『国立国会図書館年報』は、ホームページでもご覧になれます。
<https://www.ndl.go.jp/publication/annual/index.html>

書誌データ作成数（年間）

58万1928件

書誌データ提供数（総計）

2594万6379件



館全体の予算・決算
歳出予算現額
約295億1481万円
決算額
約277億5481万円

資料収集のための費用
約23億6196万円
うち、納入出版物代償金
約3億9386万円

デジタル資料点数

インターネット公開
163万9277点

図書館送信
151万9386点
図書館向けデジタル化資料送信
サービスの提供データ

館内限定
91万3111点

所蔵点数

4491万

6483点

インターネット
資料収集保存事業
収集データ件数

17万7154件

収集データ容量

1.7PB

ホームページへの
アクセス

2236万1690件

インターネットを通じて、蔵書目録、国会会議録等
の各種データベース、調べものに役立つ情報などが
利用できる

国立国会図書館サーチで
統合検索できる書誌データ

1億1622万1549件

当館や他機関が保有する冊子体・デジタル化された画像・
音声等の様々な形態の情報を検索できる

- 東 東京本館
- 西 関西館
- 子 国際子ども図書館

来館者

69万6392人

- 東 50万9353人
- 西 6万9699人
- 子 11万7340人

閲覧

198万8149点

- 東 185万6484点
- 西 10万4808点
- 子 2万6857点

来館して申し込む閲覧サービス

来館複写

120万75件

うちプリントアウト件数
55万6237件

来館して申し込む複写サービス

図書館等への貸出し

1万5456点

図書館への貸出し、小中学生向けの
学校図書館セット貸出し、展示会に
出品するための貸出しがある

遠隔複写

28万7433件

来館せずに申し込む複写サービス

職員数

891人

男性 49.9%
女性 50.1%

管理職のうち
女性の割合約 31.4%

建物延べ面積

24万6288㎡

東 14万7853㎡
国会分館 1331㎡

西 8万4343㎡
子 1万2761㎡

書庫面積

12万578㎡

7万7829㎡
609㎡

3万9026㎡
3114㎡

閲覧室面積

2万5864㎡

1万8983㎡
562㎡

4265㎡
2054㎡

NDL Topics

関西館企画展示 議会開設百三十年記念 「議会」誕生！ ～我が国議会政治の原点を さぐる～

さかのぼること130年前、明治23（1890）年11月29日に大日本帝国憲法が施行され、同日に第1回帝国議会が開会されました。それ以来、制度や運営方法を変えながら歩み続けてきた「議会」。その誕生の原点を、本展示では、3つの章を通して探ります。

展示資料は、東京本館にある憲政資料室が所蔵する歴史的資料11点に関西館所蔵資料等を加えた全40点です。第1章及び第3章は、東京本館で開催された「議会開設百三十年記念議会政治展示会」をもとにした構成で、第2章は関西館でのみご覧いただける展示になります。普段は直接見ることができない貴重な資料を、ぜひ関西館でお楽しみください。



坂崎鳴々道人(斌)著, 雑誌柳香(豊太郎)補『汗血千里駒』摂陽堂, 明16<請求記号 特41-919>



『民撰議院設立建白書草稿』〔明治7年1月〕 <古沢滋関係文書13>



〔大蔵省〕宮繕管財局 編『帝国議会議事堂建築報告書〔附図〕』宮繕管財局, 昭13<請求記号 758-145>

- 開催期間 2月18日(木)～3月3日(水)
- ※日曜日、国民の祝日は休館
- 開催時間 9時30分～18時
- 会場 関西館 大会議室(地下1階)
- 入場無料・年齢制限なし
- 問合せ先 関西館 資料案内
- 電話 0774(98) 1341
- ※受付時間: 9時30分～17時(日曜日、国民の祝日、第3水曜日をのぞく)

第1章では、明治維新から大日本帝国憲法発布までの議会制度の黎明期を、『民撰議院設立建白書』の草稿をはじめとする自由民権運動や明治政府に関する資料によって取り上げます。

第2章では、『日本國志』や『板垣退助君伝』など当時議会開設に尽力した人々を映し出す資料に加え、坂本龍馬の伝記小説『汗血千里駒』を紹介します。

第3章では、『大日本国會仮議事堂図』に描かれるような議事堂建設に関する調査資料、永田町に建設された現在の国會議事堂の建築図面を収めた『帝国議會議事堂建築報告書』など、議事堂建築に関わる資料を展示します。

国際子ども図書館展示会

「子どもを健やかに育てる本2020―厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」

国際子ども図書館では、展示会「子どもを健やかに育てる本2020―厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」を厚生労働省との共催で開催します。

児童福祉文化財は、子どもたちの健やかな育ちに役立ててもらえるように、絵本や児童書等の出版物、演劇やミュージカル等の舞台芸術、映画等の映像・メディア等の作品について、厚生労働省社会保障審議会が推薦を行っているものです。

この展示会では、同審議会が平成31年4月から令和2年3月までの期間に推薦した児童福祉文化財のうち、絵本や児童書32作品をご覧いただくことができます。入場は無料です。ご来場をお待ちしております。

○開催期間 1月12日（火）～2月28日（日）

※月曜日、国民の祝日・休日及び第3水曜日（資料整理休館日）は休館

※開催予定が変更になる場合があります。最新情報については、国際子ども図書館ホームページなどでご確認ください。

○開催時間 9時30分～17時

○会場 国際子ども図書館 レンガ棟3階本のミュージアム

○問合せ先 国際子ども図書館資料情報課 展示係
電話 03(3827)2053（代表）



21 雪の日の関西館 photo by Mizuho



新刊案内

レファレンス 838号

特集「新型コロナウイルス感染症をめぐる諸課題」
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）流行下の食料供給―令和2（2020）年6月までを中心に―

新型インフル特措法における休業要請等による財産権の制約と憲法との関係

パンデミックへの政策対応と金融システムの安定性
―コロナショックは金融危機に発展するのか？―
新型コロナウイルスの感染拡大に伴う地方財政への影響



A4 93頁 月刊 1,000円（税別）
発売 日本図書館協会

入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14

電話 03(3523)0812

1

NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 1 . 1

NO.717
JANUARY
2021

CONTENTS

New Year Greetings for 2021

- 03 <Book of the month - from NDL collections>
Seitei kacho gafu
—An artist born in the late Edo period who lived through turbulent times
- 08 Strolling in the forest of books (24)
Edo period recipe books
—Food that is fun to read about and good to eat (Part One)
- 16 Similar image search will take you places you've never seen
—Using the illustration search of Next Digital Library
- 23 The NDL in figures: from the Annual Report of the NDL, FY2019
- 21 <Tidbits of information on NDL>
What language is this?
- 22 <Books not commercially available>
Minami no shima no iezukuri
- 27 <NDL Topics>

国立国会図書館月報

令和3年1月号 (No.717)

令和3年1月1日発行

発行所 国立国会図書館
編集者 三浦良文
責任者

印刷所 株式会社丸井工文社

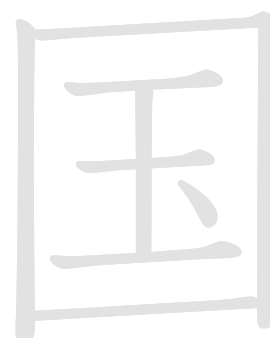
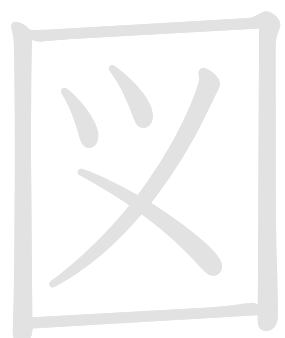
〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
F A X 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp
<https://www.ndl.go.jp/>

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<https://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



NATIONAL
D I E T
LIBRARY
MONTHLY
BULLETIN
2 0 2 1 . 1

 国立国会図書館
National Diet Library, Japan



リサイクル適性[Ⓐ]
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。